

[第33回]



東レエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 **岩出 卓 氏**

「TRENG」で新たな価値創造に挑む ～Never Give Upこそ我が社のBack Bone～

東レエンジニアリング株式会社は、1960年に東レグループの工務部門が独立して設立された60年余の歴史を持つ企業です。同社は、プラント、ファクトリーオートメーションから保全までを手がける「エンジニアリング事業」と、製造・検査・計測機器、ソフトウェアを展開する「メカトロファインテック事業」の2事業を両軸として、社会課題のソリューションを提供し続けておられます。近年の同社の事業実績は好調を継続しており、新型コロナウイルスの感染拡大で、世界経済が苦境に陥った2019年度は減収減益となりましたが、その後2020年度及び2021年度は、減収ながら増益となり、さらに2022年度は増収増益となりました。こうした結果、同社は「無借金経営」を続けており、資金を新たな事業拠点設立やベンチャービジネスへの出資など、未来に向けた事業投資に振り向けておられます。こうした好業績を達成し続けられる秘訣は、同社が2022年に新たな「ブランド戦略」として採用した「TRENG」（トレンジ）という言葉に集約されています。今回のインタビューでは、代表取締役社長の岩出卓様から、「2025年度には、売上収益1,400億円を目指す」という同社の事業戦略について、詳しく語っていただきました。

ビジネスの第1の柱 「メカトロファインテック事業」

—はじめに、御社の事業の歩みと現状について、簡単にお話しいただけますか。

岩出 当社は、1960年に東レグループの中の工務部門が独立して創業した会社です。当初は、100%東レグループの仕事をしていただいていたのですが、現在は、東レグループ関連の仕事は、全体の20～30%程度となっております。当社の使命として、「東レグループの設備投資を支える」ことの重要性は、現在でも変わってはおりませんが、それだけでは当社の要員を遊ばせておくこととなりかねないので、積極的に東レグループ以外のお客様の仕事を手がけていく必要があります。特に、2000年代に入って、繊維機械関係の事業を別会社に集約したため、当社としては、東レの材料を使っていただけるお客様





に設備の提供をするという方向に、ビジネスを転換してまいりました。

ここで、現在の当社のビジネスの礎をつくった二つの装置をご紹介しますと思います。

まずは、「TSコータ塗布装置（TORAY Slit-nozzle Coater）」です。TSコータは、上市以来、液晶カラーフィルター用塗布装置のデファクトスタンダードとして、80%以上の世界シェアを誇り、当社の業績に大きく貢献してきました。この装置には、東レグループが独自開発したスリットノズルコータが使用されており、液晶テレビの大型化に対応できるカラーフィルターの製造装置として、旧式のスピンコータに代わって、国内外で広く使われることとなりました。東レグループでは、スリットコータの基幹ユニットを全て内製化していたことに加え、スリットコータでカラーフィルターを作ってきた実績があるため、お客様の様々な要望に迅速に対応できています。

もう一つは、「LIB（リチウムイオン電池）電極製造装置」です。LIB電極の製造工程では、原反となるアルミ箔、銅箔に、それぞれ正・負極用活物質を塗布・乾燥させる塗工装置が電池性能を大きく左右します。当社では、従来型のロール塗工方式に代わる、スリットダイ方式+自社開発の間欠バルブによる間欠塗工装置を開発・実用化しました。お陰様で、この装置も当社設備の販売に大きく貢献しました。

こうした実績を基に、当社では、さらなる技術開発を重ね、時代の要請に適合した新たな製品を生み出しています。

例えば、LIB電極の製造工程における二酸化炭素排出を約25%削減できる「環境配慮型LIB電極塗工装置（グリーンコータ）」を開発・実用化しました。これは、塗液を乾燥させる工程で排熱を利用することにより、二酸化炭素の排出量削減とランニングコストダウンを実現できる設備です。また、需要が伸びているパワー半導体市場向けの高倍率検査で従来装置と比べて約2倍の速度を持つ半導体外観検査装置「インスペクトラSR-IV」を開発し、販売を開始しました。この装置は、特に高い信頼性が必要となる車載向けのパワー半導体の量産に貢献します。

いずれの装置も、当社のこれからの主力商品となることを願っています。

ビジネスの第2の柱 「エンジニアリング事業」

—そうした実績が、御社の「メカトロファインテック事業」の基盤となっているのですね。ところで、「エンジニアリング事業」は、どのような歩みをされてこられたのでしょうか。

岩出 高度経済成長時代が終了し、東レグループの国内工場建設が減ってきたことから、東レグループのノウハウを生かして、東レグループ以外のお客様の工場建設をご支援しようということとなりました。当社は、粉体を扱う優れた技術を有していたことから、一時期トナープラントの建設の仕事が多かったのですが、これと並行して、医薬プラントの仕事も増えてきました。医薬の原薬を作るためには、プラント内を無菌状態にし、医薬が外部に漏れるのを防ぐことが不可欠です。当社は、同業他社と比べて、こうした分野の技術には「一日の長」があると自負しております。例えば、高薬理活性原薬というものがあります。これは、抗がん剤などに使われるものですが、身体への影響力が大きく、ほんのわずか



半導体外観検査装置「インスペクトラSR-IV」

でも外の環境に漏れ出てはならないものです。こうした高度な「封じ込め技術」が不可欠なプラントは、当社が最も得意とするものです。医薬プラントの分野では、医薬メーカーのお客様に密着し、信頼を得て、お客様のために様々な提案をしていくことと、医薬プラントであれば、東レエンジニアリングに頼むしかない、というブランドイメージを確立していくことが重要であり、当社は着実に実績を積み上げているところです。

医薬プラントに加えて、コンタミネーションを嫌う半導体材料のプラントについても、多くの仕事を頂戴しております。半導体の原材料の製造工程において、不要な金属イオンが紛れ込むと、その材料を使用した半導体に支障をきたします。当社では、お客様目線で、厳しい技術水準に応えながら、短納期・低コスト・高品質を実現するプラントを提案しており、お客様の信頼をいただけている、と思っております。

無借金経営をベースに、積極的な事業投資

—二つの事業を両輪として、御社のビジネスが成長してこられたわけですね。

岩出 そのとおりです。二つの事業は、「キャッシュコンバージョンサイクル」から見て、対照的な事業です。エンジ

——大変立派な取り組みだと思います。大学関係者の評判はいかがですか。

岩出 こうした取り組みは今までなかったようで、大学の先生方からも、好感を持っていただいております。

人材こそ経営の柱

——人材育成については、どのようにお考えですか。

岩出 当社は、設備によって製品を作るのではなく、人が付加価値を生む会社ですので、人材育成は非常に重視しております。「オーダーメイド型の教育」ということで、目標管理はウイル型を採用し、社員のやりたいことを会社として評価する、一人一人にキャリアプランを考えてもらう、という人材育成方針を採っています。一斉研修というのは、「やらされ感」があり身に付かない、と思っております。優れた人材が「コア業務」を行い、それ以外の

業務は、DXの導入により合理化を図る、というのが当社の経営方針です。

東レグループ入社のきっかけは、1970年大阪万博

——最後に、岩出様ご自身のお話をお伺いしたいと思います。東レグループに入社されたきっかけは、どのようなものだったのでしょうか。また、お忙しいと思いますが、週末は何をされておられますか。

岩出 私は大阪府出身で、1970年大阪万博の際は、中学1年生でした。その際、「太陽の塔」の周りを囲む大屋根が、非常に印象的だったのです。就職活動をしているときに、大阪駅に東レエンジニアリングの広告が出ていて、「大屋根を下ろす」という広告だったのですが、そこで、この会社は面白い、と思い入社を決めました。したがって、私の入社動機は、大阪万博と言えるでしょう。

私は、「ものづくり」が好きなので、

週末は、陶芸や料理に凝っています。たまにマラソン大会にも参加します。

——私は、「ものづくり」はできませんが、たまにマラソン大会には参加します。本日は、お忙しいところ、大変ありがとうございました。



インタビュー後記

岩出様へのインタビューのきっかけは、大変ありがたいことに、東レエンジニアリング株式会社様からのお申し入れでした。2024年の当協会の賀詞交歓会において、代表取締役会長の須賀康雄様からも、今回のインタビューに関する期待の言葉をいただきました。果たして、須賀会長のご期待に添えたかは分かりませんが、精いっぱい書かせていただきました。

岩出様は、大変温厚なお人柄であり、技術的な素養に乏しい私に対して、辛抱強く技術的な説明をしてくださいました。「TRENG」の意味することなど、もっと書きたいこともあったのですが、紙面の関係で全てを書けなかったことを残念に感じております。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一



企業データ

社 名：東レエンジニアリング株式会社
事業内容：プラントエンジニアリング、ファクトリーオートメーション、半導体関連装置、液晶・その他ディスプレイ関連装置、マイクロLEDディスプレイ関連装置、フィルム関連装置、電池関連装置、ソフトウェア、計測機器
設 立：1960年8月
所 在 地：東京都中央区八重洲1丁目3番22号 八重洲龍名館ビル6階
従業員数：2,005名(2023年3月末現在)
ホームページ：<https://www.toray-eng.co.jp/>

